

腰痛予防労働衛生教育インストラクターコース (福祉・医療分野等コース)

平成26年度
新設!

社会福祉施設や医療分野等においては、雇用労働者数が過去10年で約2倍と急増しており、災害増加率は、それを上回ってこの10年で約2.5倍近くになっています。特に腰痛については、社会福祉施設をはじめとする保健衛生業において、最近の10年間で2.7倍に増加しています。

また、平成25年6月に厚生労働省が公表した「職場における腰痛予防対策指針」においては、「労働者には腰痛の発生に関する要因とその回避・低減措置について適切な情報を与え、十分な教育・訓練ができる体制を確立すること」とされています。

以上のことを踏まえ、福祉・医療分野において、腰痛予防のための労働衛生教育を実施する者を養成するとともに、適切な福祉用具の取扱方を学ぶ実習を多く取り入れ、その正しい取り扱い方と知識を習得し、広めることにより、腰痛予防対策の周知と推進を図ることを目的に実施するものです。

◎心とからだの健康づくり指導者の方々へ

本コースは、心とからだの健康づくり指導者レベルアップ研修の該当研修会に認定されました(認定単位数2単位)。お申し込みの際は、受講申込書の余白に「THP指導者」とご記入ください。

開講日程	<大阪> 第24回 平成27年 1月27日(火)～1月29日(木)	
対象者	医療・福祉分野における腰痛予防のための労働衛生教育の指導員(インストラクター)となる方	
研修期間	3日間	
定員	20名	
受講料	78,840円(テキスト代、消費税を含む。)	
修了証	修了者には修了証を交付します。	
教科内容	1 インストラクターの役割と心構え 2 衛生管理の概論 3 業務上腰痛の発生状況と対策事例 4 腰痛予防に係るリスクアセスメント・OSHMS 5 腰痛概論 6 作業管理	7 作業環境管理 8 健康管理 9 実習(リフト・スライディングシート等の取り扱い方) 10 体操の理論と実技 11 教育方法(指導案の作成、役割演技)



【特色】

実習では、実際に福祉用具を持ち込み、福祉用具の使い方を覚えていただくことに留まらず、その使用方法をどのように使用する作業者に教えていくのかについての実習も行いますので、即実践で使えます。

【講師紹介】

- ・ 滋賀医科大学講師 北原照代 (実習・アクションチェックリスト等)
- ・ 日本ノーリフト協会代表 保田淳子 (実習)
- ・ 天理大学体育学部教授 近藤雄二 (作業管理・作業環境管理)
- ・ 奈良県立医科大学教授 車谷典男 (腰痛概論・健康管理)

その他に、体操の理論と実技は、大阪労働衛生総合センター健康快適推進室の職員、教育方法については経験豊富な当教育センター内部講師が担当いたします。